

韓国における先端医療機器視察レポート

先月のホームページでもご案内した通り、去る9月8、9日に韓国へ先端医療機器の視察に行った。出発当日は、台風が日本を直撃しており、当日韓国へ飛び立てるか微妙な状況だったが、何とか飛び立つことができた。当日キャンセルになると次回の予定が立たない程、空席がない状況で、冬のソナタブームを肌で感じた次第だ。

訪問の目的の機器は最新のPET/CT装置である。国内ではまだ未承認のため設置されていないこともあり、近隣国の韓国へ視察することになった。8日の当日は朝一番からの検査だったため、1日前の7日に日本を発って韓国入りした。

9月8日、EULJI Medical Center（ソウル市内：700床規模）で、シーメンスのBiograph2(CT装置：Duo Emotion/2ch仕様)を使用しての検査に立ち会った。当施設にはサイクロトロン設備はなく、FDGはデリバリーにて検査が行われている。

（韓国内ではサイクロトロンが約10台程度設置され、ソウル市内では7台稼働、内3台がデリバリー用）

当日の検査の被験者は日本からの同行者がなり、2件の検査を実施した。それぞれ核種の容量と撮影時間を変えて撮影を行い、1検査は6mCi：1分/bed、もう1検査は3mCi：2分/bedの条件内容にて検査を実施。日本とは違い、一般的に韓国では日本の2～3倍の10～15mCi/検査程度の容量で行うとのことである。検査結果は1分の方は撮影時間が短かったこともあり、2分の方の画像が良好であった。国内では5mCi/件が一般的となっているが、今回は負荷を与えての検査を実施した。

翌日は、ソウル市内のAjou University Medical Center（1,100床）で、GE社のDiscovery STが設置されている施設に訪問した。同大学でもサイクロ設備はなく、デリバリーにて核種の供給を受けていた。デリバリーによる運営で、1日検査枠8件程度（訪問した週では5件の予定が一番多い）を実施している模様である。今回の検査条件は、1被験者だったため、3mCi：2分/bedにて検査が行い、検査結果はシーメンス社と同等の映像が得られた。

検査の合間に、同大学の外来部門を見学した。外来部門は1階から3階まで吹き抜けとなっており、各階ともほぼ正方形の回廊を通路として、その通路から各専門外来の中待合に入れるようになっていた。よって、外から見る限り混雑は感じられない構造となっていた。外来全体での明るさはあまりなかったが、重厚感のある設計だと感じられた。特に目を引いたのが、1階にあった外人専門外来だった。なかを見ると50人以上の人が外来を待っていた。また、売店等が結構充実しており、コーヒーショップをはじめハンバーガーショップ、フルーツショップ、雑貨屋、コンビニストアなどが地階にあった。

今回の視察での感想は、1. PET/CT装置の検査精度が非常に良くなっていること、2. 核種の量が少なくても、結構よい画像が得れること、3. デリバリー方式でも十分運営ができる、以上のことを感じた。



EULJI Medical Center



シーメンス社のPET/CT装置



GE社の装置のPET/CT装置



Ajou University Medical Center